

漢字とかなとハングル<4>

－漢字をつかわない日本語をつくりだすために－

<『むくげ通信』296号 2019.9.29より> 近藤富男

(8) 子音＋母音 ㅍ の漢字

【原則】53例あり、基本音は「ユ」または「ユウ」である。

- 1 「有無」の「有（ウ）」……………漢音・常用音が「ユウ」
- 2 「由緒」の「由（ユイ）」……………基本音は「ユ」「ユウ」
- 3 「幼稚」の「幼（ヨウ）」…呉音、漢音ともに「ユウ（イウ）」
- 4 「浄瑠璃」の「瑠（ル）」……………漢音が「リュウ（リウ）」
- 5 「留守」の「留（ル）」……………漢音が「リュウ（リウ）」
- 6 「流転」の「流（ル）」……………漢音が「リュウ（リウ）」
- 7 「遺産」の「遺（イ）」……………呉音が「ユイ」
- 8 「思惟」の「惟（イ）（ユイ）」……………呉音が「ユイ」
- 9 「維新」の「維（イ）」……………呉音が「ユイ」
- 10 「唯々諾々」の「唯（イ）」……………呉音が「ユイ」
- 11 「規則」の「規（キ）」……………呉音、漢音ともに「キ」
- 12 「絶叫」の「叫（キョウ）」……………呉音、漢音ともに「キョウ（ケウ）」
- 13 「圭復」の「圭（ケイ）」……………呉音「ケ（クエ）」、漢音「ケイ（クエイ）」
- 14 「奎運」の「奎（ケイ）」……………呉音「ケ（クエ）」、漢音「ケイ（クエイ）」
- 15 「携帯」の「携（ケイ）」……………呉音「エ（エ）」、漢音「ケイ（クエイ）」
- 16 「遺言」の「遺（ユイ）」
- 17 「唯一」の「唯（ユイ）」
- 18 「類似」の「類（ルイ）」

■ 7～18 については「ユ」「ユウ」の音がなく、原則にあっていない。

(9) 子音＋母音 ㅑ の漢字

【原則】151例あり、基本の音は「イ段」である。

- 1 「自己」の「己（コ）」……………常読音、漢音が「キ」
- 2 「囲碁」の「碁（ゴ）」……………呉音「ギ」、漢音「キ」
- 3 「最期」の「期（ゴ）」……………常読音、漢音ともに「キ」
- 4 「施工」の「施（セ）」……………常読音「シ」、呉音「イ」、漢音「シ」
- 5 「是非」の「是（ゼ）」……………漢音が「シ」
- 6 「泥炭」の「泥（デイ）」……………呉音「ナイ」、漢音「デイ」
「デイ」は単音「ディ」が重音化したものか。

- 7 「米国」の「米（ベイ）」……………呉音「マイ」、漢音「ベイ」
- 8 「新米」の「米（マイ）」……………呉音「マイ」、漢音「ベイ」
- 9 「迷路」の「迷（メイ）」……………呉音「マイ」、漢音「ベイ」
- 10 「謎語（メイゴ）」の「謎（メイ）」……………呉音「マイ」、漢音「ベイ」

■ 7～10 については単音節の「イ段音」がなく、直接は原則にあてはまらない。

(10) 子音＋母音 ㅓ の漢字【表 16】

【原則】42例中、つぎの2～5の例以外すべて漢音が「エ段音＋イ」の音である。

- 1 「薬剤」の「剤（ザイ）」……………呉音「ザイ／スイ」、漢音「セイ／スイ」
- 2 「切断」の「切（セツ）」……………呉音「セチ」、漢音「セツ」
- 3 「諸君」の「諸（ショ）」……………呉音、漢音ともに「ショ」
- 4 「掃除」の「除（ジ）」……………呉音「ジョ（ヂョ）」、漢音「チョ」、慣用音「ジ（ヂ）」
- 5 「排除」の「除（ジョ）」……………呉音「ジョ（ヂョ）」、漢音「チョ」、慣用音「ジ（ヂ）」

■ 「ㅓ」は「ㅑ」と「ㅓ」をあわせた音である。日本語音でもなんとかこの音をかなで表記しようとした結果が「エ段音＋イ」だったのではないか。

(11) 子音＋母音 ㅕ の漢字

【原則】113例中、つぎの5例以外すべて呉音または漢音に「ア段音＋イ」の音がある。

- 1 「箇所」の「箇（カ）」……………呉音、漢音が「カ」、唐音が「コ」
- 2 「個性」の「個（コ）」……………呉音、漢音が「カ」、唐音が「コ」
- 3 「国璽」の「璽（ジ）」……………呉音、漢音「シ」、慣用音「ジ」
- 4 「下駄」の「駄（タ）」……………呉音「ダ」、漢音「タ」
- 5 「無駄」の「駄（ダ）」……………呉音「ダ」、漢音「タ」
- 6 「魅力」の「魅（ミ）」……………呉音「ミ」、漢音「ビ」

■ 「ㅕ」は「ㅑ」と「ㅓ」をあわせた音である。日本語音「ア段音＋イ」は、この音をかなで表記しようとしたものとかがえられる。

■ 日本語音でも「ア段音＋イ」が「ㅕ（エ）」になっているものがわずかながらある。これまで、「愛媛（エヒメ）」「愛知川（エチガワ）」の「愛（エ）」のみだとおもっていたが、2018 年にもう一例みつけた。NHK 大河ドラマの「西郷（セゴ）どん」の「西（セ）」がそれである。

(12) 子音＋母音ㄐの漢字

【原則】5例あり、ハングルではすべてㄐである。

- 1 「潰瘍」の「潰（カイ）」……………呉音「エ」、漢音「クワイ」
 - 2 「机上」の「机（キ）」……………呉音、漢音ともに「キ」
- 「机」以外は「ワ」「ㄱ」「エ」をふくみ、かつては重母音であったことをものがたる。

(13) 子音＋母音ㄌの漢字

【原則】29例あり、つぎの4例以外、呉音には一部「エ」音もあるが、漢音はすべて「ワ」音である。

■これも本来重母音であったことをものがたるものである。

- 1 「補佐」の「佐（サ）」……………呉音、漢音ともに「サ」
- 2 「左右」の「左（サ）」……………呉音、漢音ともに「サ」
- 3 「安坐」の「坐（ザ）」……………呉音「ザ」、漢音「サ」
- 4 「座席」の「座（ザ）」……………呉音「ザ」、漢音「サ」

(14) 子音＋母音ㄴの漢字

【原則】40例あり、下の例をのぞいて、基本的には「エ段音＋イ」の音をもっている。

本来重母音をそのまま表記するかながないゆえに「エ段音＋イ」と表記したものが、かな文字の発音にひきずられて現在の音になったものとかんがえられる。

- 1 「戒律」の「戒（カイ）」……………呉音「ケ」、漢音「カイ」
- 2 「機械」の「械（カイ）」……………呉音「ゲ」、漢音「カイ」
- 3 「世界」の「界（カイ）」……………呉音「ケ」、漢音「カイ」
- 4 「階段」の「階（カイ）」……………呉音「ケ」、漢音「カイ」
- 5 「廃棄」の「廃（ハイ）」……………呉音「ホ」、漢音「ハイ」
- 6 「肺臓」の「肺（ハイ）」……………呉音「ホ／ハイ」、漢音「ハイ」
- 7 「季節」の「季（キ）」……………呉音「キ」、漢音「キ」
- 8 「癸酉（キユウ）」の「癸（キ）」……………呉音「キ」、漢音「キ」
- 9 「予定」の「予（ヨ）」……………呉音「ヨ」、漢音「ヨ」
- 10 「預金」の「預（ヨ）」……………呉音「ヨ」、漢音「ヨ」
- 11 「名誉」の「誉（ヨ）」……………呉音「ヨ」、漢音「ヨ」

(15) 子音＋母音ㄹの漢字

【原則】20例あり、「凝」をのぞいてすべて「イ段音」である。

- 1 「凝固」の「凝（ギョウ）」……………呉音、漢音ともに「ギョウ」
- なお、つぎの2例には、呉音、漢音に重母音の痕跡をのこしている。

ている。

- 2 「医者」の「医」……………呉音「イ／アイ」、漢音「イ／エイ」
- 3 「戯曲」の「戯」……………呉音「ケ／キ（クキ）／ク」、漢音「キ／キ／（クキ）／コ」

■この3例をのぞいた17例が、日本語音では短母音で表記されるが、ハングルの「ㄹ」も、重母音として発音されない場合がおおく、ここにも日本語音との共通性を感じるところである。

(16) 子音＋母音ㅍの漢字

【原則】38例あり、そのおおくはワ行音のワ、ㄱ、エの音をもつことから、このグループも本来重母音の音であったことがわかる。

■カイ、サイ、タイ、ライの音のものがあがあるが、これも表記するかなをもたなかったゆえに工夫して表記した重母音のなごりであろう。

■上記にあてはまらないものはつぎの4例のみ。

- 1 「褪衣（トンイ）」の「褪（トン）」……………呉音、漢音ともに「トン」慣用音は「タイ」
- 2 「煩惱」の「悩（ノウ）」……………呉音「ノウ（ナウ）」、漢音「ドウ（ダウ）」
- 3 「頭腦」の「腦（ノウ）」……………呉音「ノウ（ナウ）」、漢音「ドウ（ダウ）」
- 4 「賄賂」の「賂（ロ）」……………呉音「ル」、漢音「ロ」

■このうち、「ノウ（ナウ）」、「ドウ（ダウ）」も、重母音の痕跡をのこしているようだ。

(17) 子音＋母音ㅑの漢字

【原則】34例中23例が呉音、漢音に「ㄱ」または「エ」の重母音をもっている。

■「吹」、「炊」、「翠」、「酔」は、呉音、漢音ともに「スイ」で、これも本来「ウイ」の重母音をもっていたのではないかとかんがえられる。

- 1 「毅然」の「毅（キ）」……………呉音「ゲ」、漢音「ギ」、慣用音「キ」
- 2 「取得」の「取（シュ）」……………呉音「ス」、漢音「シュ」
- 3 「趣味」の「趣（シュ）」……………呉音「ス／ソク」、漢音「シュ／ショク」
- 4 「就職」の「就（シュウ）」……………呉音「ジュ」、漢音「シュウ（シウ）」
- 5 「無臭」の「臭（シュウ）」……………呉音「シュ／ク」、漢音「シュウ（シウ）／キュウ（キウ）」
- 6 「成就」の「就（ジュ）」……………呉音「ジュ」、漢音「シュウ

(シウ)」

■「シュ」「シュウ」は重母音をあらわそうとしたものの可能性がある。そうだとするなら、あきらかに原則にはずれているのは「毅(キ)」のみということになる。

3 かんがえたこと

■漢字の歴史的かなづかいをしらべてみると、日本語音は現代よりもはるかにゆたかな音をもっていたことがみえてくる。歴史的かなづかいで表記すれば同音異義語がすくなくなることが期待できる。ために、現代もちいられている漢語をいくつか、ハングルと歴史的かなづかいでかきあらわしてみた。コリア語で熟語としてもちいられているかどうかはべつとして、単純に漢字をハングルに変換した。(カタカナはハングルの音を便宜的にあらわしたもの)

■そのまえに、ハングルの構造についてひとつふれておかねばならない。ハングルの文字はつぎのような構成でなりたっている。

A 開音節の文字

子	母	가
音	音	ka

B 閉音節の文字

子	母	간
音	音	ka
子	音	n

(このような表記法をとりいれた結果、ハングルではすべての漢字を一文字でかくことができ、この点もコリア語が漢字をつかわなくてもこまらないひとつの理由となっている。)

■では、「こうじょう」「こうせい」「かいほう」のみっつの例についてみてみよう。

【こうじょう】

- | | | | | |
|---|----|--------|----|-------|
| 1 | 向上 | かうじゃう | 향상 | ヒャンサン |
| 2 | 交情 | かうじゃう | 교정 | キョジョン |
| 3 | 厚情 | こうじゃう | 후정 | フジョン |
| 4 | 恒常 | こうじゃう | 항상 | ハンサン |
| 5 | 攻城 | こうじゃう | 공성 | コンソン |
| 6 | 口上 | こうじゃう | 구상 | クサン |
| 7 | 工場 | こうぢやう | 공장 | コンジャン |
| 8 | 荒城 | くわうじゃう | 황성 | ファンソン |
| 9 | 甲状 | かふじゃう | 갑상 | カッサン |

【こうせい】

- | | | | | |
|---|----|------|----|-------|
| 1 | 公正 | こうせい | 공정 | コンジョン |
| 2 | 厚生 | こうせい | 후생 | フセン |
| 3 | 構成 | こうせい | 구성 | クソン |
| 4 | 攻勢 | こうせい | 공세 | コンセ |
| 5 | 後世 | こうせい | 후세 | フセ |
| 6 | 恒星 | こうせい | 항성 | ハンソン |
| 7 | 後生 | こうせい | 후생 | フセン |
| 8 | 更生 | かうせい | 갱생 | キョンセン |
| 9 | 校正 | かうせい | 교정 | キョジョン |

【かいほう】

- | | | | | |
|---|----|-------|----|------|
| 1 | 開放 | かいほう | 개방 | ケバン |
| 2 | 解放 | かいほう | 해방 | ヘバン |
| 3 | 介抱 | かいほう | 개포 | ケポ |
| 4 | 快方 | くわいほう | 쾌방 | クェバン |
| 5 | 回報 | くわいほう | 회보 | フェボ |
| 6 | 会報 | くわいほう | 회보 | フェボ |
| 7 | 解法 | かいはふ | 해법 | ヘボッ |

■これからつぎのようなことがみてとれる。9 個あった「こうじょう」は、歴史的かなづかいであらわすと 1～2、3～6、7、8、9 の 5 種類の音にわかれ、同音異義語がすくなくなる。が、おなじく 9 個あった「こうせい」は 1～7、8～9 の 2 種類とはなるが、「こうじょう」ほどではない。7 個あった「かいほう」は 1～2、3、4、5～6、7 の 5 種類となつて、同音異義語はかなりすくなくなる。漢語を歴史的かなづかいで表記すればある程度同音異義語をへらすことができるということである。

■ところが、ハングルを見ると「こうじょう」にはおなじ発音になるものがなく、「こうせい」も「厚生」と「後生」がおなじになるだけでほかはすべて発音がことなる。「かいほう」も「回報」と「会報」がおなじなだけでほかはすべてことなる。

■このことは、コリア語においても同音異義語がまったくないわけではないが、日本語とくらべてはるかにすくないことをしめしている。これが、朝鮮においても韓国においても漢字をつかわないですんでいるおおきな理由のひとつであろう。

■「日本語音」で同音異義語がおおくうまれてしまった背景には「かな」のちからの限界がある。本来、漢字はすべて一音節であるが、現在のこっている「か

な」には重母音を表す文字が「ワ」「ヰ」「エ」「ヲ」以外になかったことで、たとえばハングルの ㅏ (ト ア + ㅣ イ) にあたる音を「アイ」と二文字で表記するほかなかった。当初は「アイ」とかいて「ア+イ」の音をあらわし、それにちかい音を発していたのであろうが、しだいにこれが重母音であることをわすれ、そのまま「アイ」と発するようになったのではないかとかんがえている。

■また、「ワ」「ヰ」「エ」「ヲ」にしても、「かな」はこれ以上文字を分解しようがなく、したがって歴史とともに単母音化せざるをえなかった。これに対してハングルは「ㅏ (オ) + ㅑ (ア) → ㅓ (ワ)」「ㅓ (ウ) + ㅣ (イ) → ㅕ (ヰ)」「ㅏ (オ) + ㅑ (エ) → ㅓ (エ)」「ㅓ (ウ) + ㅑ (オ) → ㅕ (ヲ)」と、それぞれが複数の母音をあわせてつくった音であることを文字自身があらわしているの、その文字のあらわす音は重母音であるということをわすれようがないのである。

■一音節の漢字音が日本語では二音節になってしまったのは、閉音節の音をもっていた漢字についても同様である。はじめは「○ k」を「○ク」と表記して「○ k」と発音していたのが、次第に文字にひきずられて「○ク」と発音するようになり、また、かつては「○ン」「○ウ」「○ム」とかいて「○ n」「○ ng」「○ m」と発音していたものを、いつのころからか、これら三つの音のちがいを意識しないまま、すべて「○ン」と表記し、あとにつづく音につられるかたちで三種にわけて発音するようになった。「見当をつける (けんとう)」の「ん」は「n」、「漫画をよむ (まんが)」の「ん」は「ng」、「心配する (しんぱい)」の「ん」は「m」と、自分がことなる音を発していることさえ気づいていない。あとにつづく音にひきずられて、自然に、おなじひとつの「ん」を、「n」「ng」「m」と、三種類のことなる音で発しているのである。ハングルには「n」「ng」「m」をあらわすべつの文字「ㄴ」「ㅇ」「ㄹ」がある。

■このようにして、日本語のなかでは、本来一音節であった漢字の発音はそのおおくが2音節に変化してしまい、重母音は単母音になり、結果、同音異義語が多数できてしまったのである。

■じつは、コリア語は漢字をつかわないといいながら、漢語 (コリアでは漢字語) は日本語以上におおくつかっている。いくつか例をあげてみる。

あきらめる…放棄する…보기하다
ことわる…拒絶する…고절하다
たのむ…付託する…부탁하다
おちついている…沈着している…침착하다
じゃまする…妨害する…방해하다

■日本語においては、つねは「あきらめる」「ことわる」「たのむ」「おちついている」「じゃまする」をつかい、「放棄する」「拒絶する」「附託する」「沈着」「妨害する」は文章中でつかうか、あるいは、語気をつよめていう場合につかう。これらについてコリア語では「漢語+する」をつかうのがつねである。

■日本語がおおくの音をうしなってきたのは、漢字がはいってきたあと比較的はやいうちに「かな」をつくりだしたことにその原因があるとかんがえる。漢字のもっていたゆたかな音を「かな」はかきあらわすことができなかったのである。あるいは、もともと日本語は開音節の音のみでなりたっており、重母音をつかうことのすくないことばであったから、当時から日本語をかきあらわす「かな」はこれらの音をあらわすことをもとめられなかったということか。

■同時に、日本語ははやくに「かな」を手にした結果、比較のおおくの和語を「かな」でかきのこすことができたのであろう。

■これに反して、コリアではコリア固有のことばをかきあらわす文字が 15 世紀までうまれなかった。このためコリアでは、かくことばとしては漢文、つまり古代中国語がながいあいだつかわれることになり、それゆえ、漢語のすなわち漢字の中国音がながいあいだもたれてきたのである。そして、15 世紀になって、漢字語をふくめて当時コリアにあった音をすべて、正確にかきあらわすことのできる文字として、科学的・合理的にかんがえてつくりだされたハングルは、漢字のもっている音をほぼ忠実に再現できたのである。

■そのかわりというべきか、ハングルができたときには、かつて、そのとき以上にゆたかにあった固有語 (日本でいう和語) は歴史のなかでそのおおくが漢字語におきかえられてしまっていたということであらう。

<つぎは最終、一応の結論「まとめ」>